

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>《育てたい生徒》 ○確かな学力を備えた質実清楚な人 ○深い専門性を備えた人 ○社会に貢献できる人 ○社会変動の激流の中でも生き抜く体力と知力を備えた人 ○深い他者理解の精神を備えた人 ○『明朗』明るく伸び伸びと創造する力のある人 ○『寛容』包容力があり広い視野をもち先見性のある人 ○『忍耐』苦境を乗り越え、新しい道を切りひらく力を備えた人</p> <p>《育てたい資質・能力》～社会人としての一步を踏み出す力～ 1 Shine～明るく・輝く～ 前向きな人、明るく活気のある職場をつくる力 2 Union～調和～ 内にも外にも開かれ、チームの多様性を認める力 3 Business～勤労～ ビジネスマナーと資格取得、使いこなせる学力 4 Action～実行～ 自立心のある人、課題解決の視点 5 Robust～たくましく 何があっても立ち上がるしなやかな力 6 Unite～一つになる～ 自他への敬意がある人、円滑な対人関係を築く力</p>	<p>1 新しい時代の職業観を確立する取組み 仮想空間における販売学習をさらに深めたい。また、オンライン販売と実販売を組み合わせたハイブリット販売を検討する。検定試験合格者数の拡大は更に強化が必要である。時代に合ったビジネスマナー教育として始めたオフィス・カジュアルについては、生徒の挑戦の機会として次年度も継続する。産業と連携した実践的探究は、令和元年度から3年間実施した、文部科学省の地域協働事業の成果を継続して生かしていきたい。</p> <p>2 主体性を確立する取組み 今年度は新学習指導要領実施の年度であり、第一学年では育てたい資質として「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性など」の実現を目指した授業改善や観点別評価を実施した。次年度は学年も広がり、さらなる取組を実施したい。10月の体育祭についてはコロナ前と同じ形態で実施することができた。日頃の体育の授業で培う何事にも懸命に取り組む態度が発揮され、本校生徒らしいすがすがしい姿が見られる行事となった。次年度は多くの保護者の皆様にも見学に来ていただける状況になっていることを願う。</p> <p>3 自立(律)性を確立する取組み 清掃による校内環境保全などの凡事徹底を継続する。主権者教育（18歳選挙権）については、生徒たちの18歳で選挙権を得られる自覚がまだ乏しく、自分自身のこととして、具体的に考えられるようにするには、他教科とも連携した3年間の学習が必要であると考えられる。消費者教育（18歳成人）については自身の精神的、経済的、社会的自立が必須条件であることを、教科の枠を越え、折に触れて訴えなければならぬと考えている。人権教育・多様性教育を生徒指導の柱にするとともに、生徒指導提要の改訂の趣旨を踏まえた生徒指導を行っていく。</p> <p>4 社会性を確立する取組み 地域ボランティア活動や地域との協働的学習を次年度も継続して実施していく。また姉妹校協定を締結した台北市立士林高級商業職業学校との連携をさらに発展させる。</p> <p>5 デジタル・シティズンシップを確立するための取組み 一人一台端末の教育活動における活用の研究をさらに深める。</p> <p>6 進路実現のための取組みと 時代の要請に応じた、人材育成としてコミュニケーション能力や主体性といった社会人基礎力伸長に向けた指導を継続していくべきと考える。またより高度な探究学習や資格によって総合型選抜に挑戦できる「専門学科ならではの強み」の伸長を目指したい。さらに大学や専門学校に御協力いただき、連携型入試を拡大していきたいと考えている。</p>	<p>《重点目標1》 本校が目指す学校像の目標 1 専門性ある職業人を育てる学校 新しい時代に応じた専門性と社会に貢献する意識を育む取組が実践される学校 ○ビジネス実践「京都すばるデパート」 ○検定試験合格率の向上 ○地域との協働による実践的探究学習 ○新しい時代のビジネスマナー</p> <p>2 主体性を育てる学校 自己肯定感を高め、心理的安全性が高く自ら考え挑戦する意識を育む取組が実践される学校 ○主体的・対話的で深い学びを実現する授業 ○主体性を育てる部活動の活性化 ○主体性を育てる学校行事としての体育祭・球技大会・研修旅行</p> <p>3 学力が向上する学校 基礎学力の定着および、高度な学力の育成に向けた学習習慣が定着する学校 ○基礎学力の学び直し期間の設定 ○学びに向かう意欲が向上する授業運営 ○進学補習の計画的実施による入試学力の向上</p> <p>4 自立(律)性を育てる学校 規範意識と多様性を育む取組が実践される学校 ○約束を守ること、清掃による校内環境保全などの凡事徹底 ○主権者教育（18歳選挙権） ○消費者教育（18歳成人） ○発達支持的・課題予防的生徒指導</p> <p>5 社会性を育てる学校 グローカル社会における連携や協働を重視し、社会から必要とされる人材育成の取組が実践される学校 ○地域ボランティア活動の推進 ○地域との協働的学習の推進 ○姉妹校の台湾士林高校と連携推進 ○平和教育の推進</p> <p>6 教育相談を組織的に行う学校 悩みを抱える生徒ひとり一人に対して、学校とともに多様な専門家の教育相談体制をつくりきめ細かく対応する学校 ○校内会議の充実 ○特別支援コーディネータによる外部期間との連携の充実 ○スクール・カウンセラーによるカウンセリング体制</p> <p>7 進路実現ができる学校 身に付けた専門性を生かしたキャリア形成としての進路実現ができる学校 ○就職環境京都ナンバーワン ○学校推薦・総合型選抜で勝負できる専門性や学力向上の徹底 ○連携型入試の拡大</p> <p>8 学校DXを推進する学校 一人一台端末等、ICTを効果的に活用し学校DXを推進する学校 ○一人一台端末活用の推進（1・2年生） ○教育活動のDXを推進する ○校務のDXを推進する</p> <p>《重点目標2》 本校が目指す教職員チームの目標 1 共有するチーム ○教育方針や育てたい生徒像、生徒の日常の様子を共有するチーム 2 協働するチーム ○ひとり一人の強みを生かし、協働して本校教育に向き合うチーム 3 対話するチーム ○意見の相違を受け入れ、対話を大切にしているチーム 4 サポートするチーム ○業務分担・サポートしてポジティブなフィードバックをするチーム 5 オフィス感覚を持つチーム ○時間外勤務を減らし、オフィス感覚を持って互いに働きやすい環境作りをするチーム 6 笑談するチーム ○笑談をとおして新しいアイデアを創造するチーム</p>

部	評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	評価			成果と課題
教務部	学習指導	基礎学力の向上を図る	新入生に対して基礎学力の補充を実施する	7日以上行う	A	A	A	基礎学力学習を実施した
			考查前補充を実施する	年間で25日以上行う	A	A	A	考查前補充を実施した
			長期休業中に補充を実施する	8日以上行う	A	A	A	長期休業中に補充を実施した
	授業力向上	授業力の向上を図る	研究授業の実施	各教科において1回以上研究授業を行う	A	A	A	各教科において研究授業を実施した
			授業参観の実施	各教員が1回以上授業参観を行う	B	B	B	一部授業参観参観カード未提出
校務DX推進	校務のDXを推進する	校務を見直しDXを推進する	校務1つ以上のDXを図る	A	A	A	校務のDXを積極的に実施した	
総務企画	生徒募集	校外広報の充実と強化（中学生・保護者・教員・塾・地域・企業等）	・特に高卒後就職を考えている中学生への広報活動 →方策の詳細は職員会議資料「生徒募集戦略」参照	次年度前期選抜における志願者数 （起業創造科90名以上、企画科120名以上、情報科学科90名以上）	A	A	前期選抜の志願者数は起業創造科100名、企画科117名、情報科学科90名で、企画科以外は目標を達成することができた。各説明会等の満足度は80%を超え、充実した内容となった。「すばるアントレパーク」やデパート説明会などは在校生・中学生・保護者にも大きなインパクトがあった。ブログは担当者がそれぞれ更新できる仕組みを整え、年間250回以上更新し、校内外の広報強化ができた。	
		校内広報の充実と強化（在校生・保護者・教職員）	・授業や行事の様子を校内でも共有し、在校生・保護者・教職員の帰属意識や満足度を高める →方策の詳細は職員会議資料「生徒募集戦略」参照	同上（校内広報が最終的には中学生の募集につながる）				B
	図書	図書館の活性化	・総務企画部員で図書館業務や委員会活動を分担する ・各種イベント等を積極的に企画実施する ・授業等で図書館を活用してもらうよう働きかける	図書館の利用者数のべ7,000人以上 授業での図書館利用回数10回以上	B	A		利用者数は年間6,840人、授業での利用回数は24回であった。イベントの企画実施も積極的に行った。次年度も「授業で活用してもらう仕組み作り」を引き続き行いたい。
	その他	PTA活動の整理と再構築	・管理職と共に、コロナ禍でのPTAの在り方や、時代に合ったPTA活動について検討する	「前年度までの踏襲」をやめ、管理職・関係各所と検討・調整できたか	B	B		専門委員会の整理統合や本部役員数の見直しを行った。行事の手伝いも立候補制にしたところ前年の倍以上の自発的参加者があり、新たな活動形態を構築しつつある。
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	登校時の校門指導を実施し、5分前集合の定着を図るとともに、遅刻した生徒には、的確に指導する。	毎朝、登校時の校門指導を行う。校門遅刻指導件数を昨年度より減らす。	C	B	B	校門での遅刻指導は減ったが、そこでカウントされない遅刻が課題である
			身だしなみの重要性を指導し、生徒自身に細部にわたり身なりを整える意識を持たせる。日々観察しながら、改善点を確実に指摘する。	全校生徒対象のアンケートを実施し、評価を行う。（予定）	C	B	B	おおむね達成できた。（アンケート未実施）
	生徒指導	相手の立場に立った言動ができる生徒を育てる	挨拶をした人、挨拶をされた人の双方が、さわやかな気持ちになる挨拶を心掛けるよう指導する。「自ら気づき」自主的に挨拶ができるように指導する。	全校生徒対象のアンケートを実施し、評価を行う。（予定）	C	B	B	おおむね達成できた。（アンケート未実施）
			年2回の人権学習や日常のホームルーム、部活動などを通じて、言動に責任を持つとともに、他者への思いやりが感じられる行動を心掛けるよう指導する。	年2回のいじめ調査アンケート調査を行い、評価する。	C	B	B	おおむね達成できた。（アンケート未実施）
生徒指導	生徒の主体的な活動を支援する	部活動、生徒会活動、各種委員会活動の充実を図る。	生徒会活動、各種委員会活動の活動内容により評価を行う。	C	A	A	生徒会・風紀委員会が充実した活動を行った。	
		体育祭・球技大会等の学校行事の充実と主体的な運営と参加を促す。	生徒会活動、各種委員会活動の活動内容により評価を行う。	C	B	B	より生徒が運営に関わる行事の運営を目指したい。	

進路指導部	進路指導体制の拡充	学力が向上する学校	各種模擬試験／実力テストの分析を行い、学習面・生活面・進路意識等についての生徒の実態把握に努める	学年全員が受験する模擬試験／実力テストの分析を実施し、部長会議等で報告する	B	B	B	一部分析報告ができなかったものがある
		教育相談を組織的に行う学校	教育相談会議や学年部との連携調整を密にし、配慮の必要な生徒の進路実現についての道筋をつける	配慮が必要な生徒の進路実現への対応するとともに、今後に向けた指導計画を策定する	B	A	A	配慮が必要な生徒の就職を実現し、今後の指導の道筋もつけた
	持続可能な進路実現方法の模索	進路実現ができる学校	就職補習の実施・企業見学の拡充など、就職指導体制の充実を図る	アンケートで80%以上3年生がの就職指導に対して前向きな評価をしている	B	A	A	計画的な就職指導を行い、一次試験での不調者も減少した
		進路実現ができる学校	上級学校との連携を進め、高大連携型をはじめとする生徒の状況に合わせた進路実現の道筋をつける	令和5年度末までに高大連携先（新規）を一校以上開拓する	A	A	A	新規に高大連携先を開拓できた
	キャリア教育の充実	主体性を育てる学校	キャリアパスポートの運用や職業分野別講演会や分野別進路体験学習などをとおして、生徒が自身のキャリアを意識し、日々の諸活動に主体的・積極的に取り組めるように指導する	各種アンケートで80%以上の生徒が前向きな評価をしている	B	B	B	前向きな評価をしている生徒が多い反面、キャリアを意識した主体的な取組については課題が残った
教育推進部	専門教育	資格取得・検定合格、各種競技大会等に向けた取り組みの充実	専門教科等と連携して検定補習を円滑に実施し、生徒の資格取得を推進する。	各検定試験が設定した目標合格率を上回る。高度資格取得のための講座を開催する。	—	C	C	講座を開設し補習に取り組んだが、全体の合格率は伸び悩んでいる
			専門教科、各部活動と連携して、専門教育を生かした各種競技大会等への参加を推奨・支援する。	全国入賞を目標とし、全国大会・近畿大会に出場する。	B	B	B	各種競技大会において全国・近畿大会に出場した。全国入賞はならず。
		産業と連携した実践的探究	文科省地域協働指定終了後の、地域との協働型の特色ある教育活動の推進を継続する。	生徒の振り返りレポートより、生徒に気づきと成長が見られる。	B	B	B	探求型の科目で課した生徒レポートより、一定の成果が見られた。
		新しい「京都すばるデパート」の研究	「専門性ある職業人」「主体性」を育成することを目標として、深い学びを得る場としてのデパートを構想し、関係者との「共有」と「協働」によって実行する。	準備段階と当日における潤滑な運営ができる。生徒が自らの成長を認識できている。	—	B	B	トラブルはあったもののおおむね潤滑に運営できた。役職を担った生徒は特に自らの成長を認知できた。
		情報ネットワークシステムの維持・管理	情報ネットワークシステムの維持・管理を行う。	情報ネットワークシステムの維持・管理がスムーズにできる。	B	B	B	ネットワークの維持・管理は概ねスムーズに進めることができた。
		一人一台端末等ICT教育を授業・課外での活用	「学校DXの推進」のため、ICT研修会等の開催及び活用に向けた情報の発信・提供に取り組む。	ICT研修会等の開催及び活用に向けた情報の提供ができる。	B	B	B	ICT活用に向けた情報提供に心がけた。今後さらに高めたい。
保健部	自律性の確立	清掃による校内環境保全の凡事徹底	挨拶ではじまり挨拶で終わることで、10分間全てを用いて清掃する	10分間の清掃時間を全て使って清掃できている	B	B	B	清掃マニュアルを配布し、保健委員による各HRでの呼びかけができた。
		校内の環境保全に向けて、保健委員会を中心に主体的に清掃に取り組む	どうすれば校内が美しくなるかを生徒が主体的に考え、ポスター作成やニュース作成といった啓発活動を行う。	保健委員会の生徒が主体的に美化清掃活動に取り組む	B	B	B	保健委員が各HRで口頭で啓発する場を設けた。
	教育相談を組織的に行う	気になる生徒、学校不適應の生徒への早期で適切な対応を図る	保健担当者会議を持ち、気になる生徒の指導や方向性について情報共有、対応を行う。その後、教育相談会議を持ち、今後の対応、指導支援について審議する。	月1回の保健担当者会議に向けて、校内連携、情報共有を行い、教育相談会議を学期に2回開催し、生徒へのきめ細かい対応を行う。	B	B	B	学年部ともケース会議を持ち、対応も含めた情報共有できた。
		悩みを抱える生徒に対して、多様な専門家の教育相談体制を作る	多様な専門家（SC）のカウンセリング体制と専門家（学び生活アドバイザー）との面談を実施する	SCのカウンセリングを年度で28回程度実施する	B	B	B	カウンセリングを丁寧に行い、情報共有できた。
	教育相談を組織的に行う	一人一人の生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導、支援を行う。	特別支援が必要な生徒の実態把握を行い、生活や学習上の困難を改善し、社会的自立に向けた指導、支援を行う。	特別支援会議を学期に2回開催し、当該生徒の自立や社会参加に向けた取り組みを行う	B	B	B	継続的な指導の実施ができた。
特別支援コーディネーターによる外部機関との連携の充実		必要な関係機関と相談や適性検査の実施といった連携を行う	必要な関係機関と学期に1回は連携を行う	B	B	B	分掌間の情報共有の工夫に努めた。	

第1学年部	学習指導	学習習慣を確立させる	教室清掃をはじめとして学習、教室環境の整備をし、全員が学習に取り組む雰囲気作りをする。	学校生活全般や各クラスでの生徒の様子を観察することや面談を通して検証する。	B	C	C	家庭学習・自学自習の定着に向けて対策を次年度考えていく必要がある。(提出物が出せない生徒も含め)
	生徒指導	基本的生活習慣を確立するとともに、問題や課題を抱えた生徒を早期発見し対応する。	学年会議で各クラスの生徒状況を把握し、担任団と他分掌が協力して指導する。個人面談等を随時行い、保護者の方との連携連絡を密にして、問題解決に向けて、早期対応、早期対処に当たる。	学校評価アンケート(生徒)の項目により80%以上を目標に検証する。	B	C		次年度以降も多様な生徒に合わせた丁寧な聴き取りを行い、他分掌と協力しながら対応をしていく。また、保護者連絡も密に行っていく。
	学校運営	ICTを活用した情報共有の充実を目指す。	Classiなどを活用し、保護者・生徒への情報を迅速に行う。	学校評価アンケートで確認する。	B	B		生徒の学校生活の様子だけでなく、進路に関わる情報も共有していく。
第2学年部	進路指導	進路目標を明確化し、授業を大切にするとともに積極的に学習活動に取り組む姿勢を育成する	学習環境を整備し、日々の授業を大切にするとともに進路ガイダンスを活用し、将来の自己の姿に展望を持たせる 業者による模擬試験等を活用し、面談等をとおしてきめ細かに点検する	学校評価アンケート(生徒)の項目により80%以上を目標に検証する 業者による資料を活用し、学力と学習習慣の改善度合いを検証する	B	B	B	進路に向けての意識がまだまだなく、家庭学習の習慣も身につけていないのが現状。業者とは、2学期以降やりとりをしながら色々とアドバイスを頂いた。
	生徒指導	基本的生活習慣を確立するとともに、問題を抱えた生徒を早期発見し対応する。	学年会議で各クラスの生徒状況を把握し、必要に応じて担任団が協力して指導する。個人面談等を随時行い、保護者の方との連携連絡を密にして、問題解決に向けて、早期対応、早期対処に当たる。	学校評価アンケート(生徒)の項目により80%以上を目標に検証する	C	C	C	基本的生活習慣(身だしなみ・校則等)がまだまだ定着していない。他分掌と連携しながら対応すべき点が多々あった。
	学校運営	ICTを活用した情報共有の充実を目指す。	Classiなどを活用し、保護者・生徒への情報を迅速に行う。	学校評価アンケートで確認する。	B	B	B	保護者の方との連携連絡を密に、対応していかなければならない。
第3学年部	進路指導	個々の希望する進路実現を目指す。	担任による面談等の指導の充実。進路指導部との密な連携。	学校評価アンケート問8に対する「①そう思う」「②どちらかというと思う」の回答合計が80%以上を目標とする。	B	B	B	評価アンケートでは、80%強の肯定的な回答があった。個々にあった進路や入試方法を指導することができた。
	生徒指導	自立(律)性の確立。3年生として下級生の模範となる行動・言動を身につける。	担任によるSHR、LHR時の指導。約束を守ること、清掃による校内環境保全などの凡事徹底。必要があれば、学年全体での指導を行う。	生徒の言動を観察し、評価する。	B	B	B	担任からSHR・LHRにおいて、色々な話をするなかで、3年生としての自覚を持たせることができた。清掃については、重点的に環境整備に取り組ませることができた。
	学校運営	ICTを活用した情報共有の充実を目指す。	Classiなどを活用し、保護者・生徒への情報を迅速に行う。	学校評価アンケートで確認する。	B	B	B	Classiを活用して、連絡や情報の発信を適度に実施出来ていた。しかし、Classiを確認している生徒が少ないのも現状である。ICTでの情報確認を習慣化する指導が必要である。
事務部	予算執行	・学校の特色化の推進及び活性化・他校との差別化を図るための効果的な予算執行 ・経営資源(ヒト・モノ等)に対する効果的予算執行	・校内会議、広報活動への積極的な参加を行う。 ・教職員間でのコミュニケーションの場を多く設ける。	目標を実現するための重点的な予算確保及び執行	B	B	B	経費削減を行いながらも、目標・要望に対して、予算の確保・執行をすることができた。経費削減については、より周知徹底が必要と考える。
	施設設備環境管理	安心安全な学校づくり	施設担当者・技術職員を中心に施設設備の定期的な点検を行い、危険箇所を把握する。また、老朽化した施設設備について、計画的に改修を行う。	・月1回程度の定期点検の実施 ・修繕、改修計画の作成と予算化	A	B		・月1回の定期点検は達成。 ・樹木剪定等を積極的に行い環境整備に努めた。
	就学支援	経済的不安に対する制度からの支援 一人一台端末に対する支援制度	就学支援、奨学金の周知と丁寧な事務処理を行う。 家庭状況に応じて適切な対応を行う。	就学支援、奨学金等の生徒・保護者・教職員への周知徹底 購入・持込端末について、各制度を活用してすべての生徒のスムーズな利活用を進める	B	A		奨学金等を必要とする家庭に確実に周知できるよう周知方法を変更した。 支援制度の理解が得られず、辞退されるケースがあった。より丁寧に説明していく必要がある。

国語	主体性	学習における主体性を確立する取り組み	学びに向かう意欲が向上する授業運営を目指し、スピーチやグループ学習に取り組みせたり、積極的な授業での発言を促したりする。	自分の考えを表現する場で、発言あるいは筆記することで考えを表現させることができたか。	B	B	B	自分の考えを積極的に表現しようとした。	
	学力	学力を向上させる取り組み	課題提出を通して、学習習慣を身につけさせる。	1年生から課題の確認をこまめに行い、日々の学習習慣が身につけさせられたか。	B	B	B	こまめに課題の確認を行い、多くの生徒は日々の学習ができていた。	
			日々の小テストを通じ、こつこつ物事に取り組みせ、基礎学力の定着を図る。	小テストにおいて6割以上の正解を得られているか。	B	B	B	おおむね6割以上の正解を得られた。	
	進路	進路実現のための取り組み	知識を増やしたり、自分で学んでいく姿勢を育んだりするために、読書を促す取り組みをする。	図書案内をしたり、課題を課したりして、図書に触れる機会を増やせたか。	B	B	B	読書記録や一行大賞への応募などを通して、読書活動の推進ができていた。	
地歴公民科	主体性確立	授業における主体的・対話的で深い学びの実現	授業における発問・対話・グループ学習の導入	発問対話形式は毎時間 グループ学習は1学期2回程度	C	B	B	概ね達成	
	自立性確立	主権者・消費者・人権・多様性教育	地歴公民の学習関連関連分野での詳細説明	定期考査では関連分野での得点 その他は、映像教材視聴後の感想文	C	B		概ね達成	
				時間が割けないことあり	C	C		時間が割けないことあり	
	デジタル・シティズンシップ	一人一台端末を授業・課外での活用	1年は一人一台端末の授業での活用 2, 3年は教員のICT機器の活用	1年生はiPadを用いた学習ができる。 2, 3年生は教員がiPadを用いた授業ができる	C	B		他の教員の活用方法を知りたい	
C	B	他の教員の活用方法を知りたい							
数学科	学習指導	基礎学力の定着を図る。	授業内容の精選、及び中学校までの履修事項とのスムーズな接続を図る。	課題の提出率100%を目指す。基礎学力テストや模擬試験の成績が、入学時より向上するように指導する。	B	B	B	課題の提出率は、どの講座もおおむね80%は達成できているが、100%には及ばない。また、生徒の家庭学習時間は全体的に少なく、基礎学力が定着しているとは言い難い。	
	進路指導	進路実現のために必要な学力の充実を図る。	生徒の希望する進路に応じて、補習や個別指導を行う。	夏期・冬期に最低1回ずつ進学補習を実施する。	A	A	A	長期休暇（夏・冬）を利用した進学補習は、1・2年ともに実施することができた。	
	ICT活用	デジタル教材を活用する。	デジタル教材（Webコンテンツ・Studyaid D.B.・TeX・iPadなど）による授業の視覚化・効率化を図る。	全授業の20%以上でデジタル教材を活用する。	C	C	C	授業や教材作成など、部分的にデジタル教材を用いることはあるが、すべての講座で積極的に活用しているとは言い難い。	
理科	主体性の確立	高校入学以前に学習した基礎知識および基本的な数的処理の学び直し	主に発展的な内容を扱う単元において、基礎的な内容が理解できているかを確認し、場合によっては高校以前の非常に基礎的な内容から段階的に理解できるような授業設計を行う。	考査平均点および提出課題の得点平均が全体の60%以上となっているか。また、授業に関するアンケートにおいて、理解度や興味関心に関する項目の肯定的回答が70%以上となっているか。	B	A	A	基礎的な内容の理解を丁寧に行ったことによって考査平均点が7割程度となった。	
		基礎知識の定着、個別指導の充実とそれに伴う学習意欲の向上	各単元において、特に基礎知識の定着を重点的に行い、わからない生徒を最小限にとどめる。授業中に理解が追いつかなかった生徒については、個別指導を行い、講座全体で学習意欲が低下しないように対応する。		B	A	A	個別指導を丁寧に行ったことで、理解度や興味関心に関する項目の肯定的回答が多かった。	
	進路実現	個別の進路希望に応じた指導単元の精選	生徒の進路希望を丁寧に聞き取り、全体授業で取り組む発展的単元を精選する。	カリキュラム上不足している科目、授業では時間的な問題で扱いきれない単元を、進学補習で積極的に扱うことによって学習の不足を補う。	進路実現において理科を活用する生徒が、進路実現できたかどうか。また、その過程における模試等の成績が進路実現をするために必要な基準以上となっているかどうか。	B	B	B	進路希望の聞き取りを十分に行えなかった。
		個別の進路希望に応じた補習講座の開講	カリキュラム上不足している科目、授業では時間的な問題で扱いきれない単元を、進学補習で積極的に扱うことによって学習の不足を補う。			A	A	A	各時期の補習において、カリキュラム上不足している単元を扱うことができた。
生徒情報の共有	生徒情報を共有し、個別指導および全体授業の設計に生かす	様々な学力層および行動特性を持つ生徒が在籍しているため、授業中の様子やそれ以外にも気がなったことがあれば、なるべく早期に教科内で共有し、指導に反映させる。	生徒情報の共有に関する教科会議や情報共有の機会をなるべくこまめに、複数回持つことができていますか。	B	B	B	来年度はより特別支援的な情報共有を教科内で強化していきたい。		

保健 体育科	一人一台端末活用の推進	一人一台端末の利用を積極的に活用していく。	グラフや図など、教科書のQRコードを読み取り活用する。アンケート機能を活用する。	課題学習の際に、発表資料の作成をタブレット端末やパソコンを活用できるか。	B	B	B	タブレット端末やパソコンを使用して発表をする生徒も増加したが、所有している全員が活用したわけではなかった。
	主体性を高める	自己の体力における特徴と課題を把握させるとともに、一層の向上を図る。	毎時間の終わりに振り返りを記録させる。自分の課題を明確にし、次の授業に向かわせる。	振り返りシートにより自己の課題の達成度が授業開始時より向上しているか。	B	A	B	種目終了時に毎時間振り返りシートを記入することができた。課題を明確にし、次時の授業につなげることができた。
		各種目の知識理解及び技能向上を図る。	知識テストを実施する。	知識テストの結果。ルールを理解したゲーム展開ができていますか。	B	B		すべての種目において知識テストを行うことはできなかった。しかし、日常の授業の中で、しっかりとルールを指導し、それに則したゲーム展開はできた。
	自立（律）性を高める	安全かつ円滑に授業を進行するとともに、規律ある行動のもと、積極的に身体活動を行う心身の発達を促す。	年度初めに集団行動を実施し、集団での一人一人の行動の責任と重要性を感じさせる。毎時間の授業はじめに整列と挨拶を丁寧に実施する。誰か任せではなく、一人一人が声を出すよう促す。	様々な教育活動の中で迅速な行動、心のこもった挨拶ができていますか。	C	B	B	体育の授業においても、迅速な行動、心のこもった挨拶の徹底ができなかった。日常から繰り返し、意義を生徒達に伝えていく必要がある。
英語科	学習における主体性を確立する取り組み	1年生英語コミュニケーションI、3年情報科学科（課題研究）でTTを実施して主体的な態度を育成する。	AETとのTTを実施し、主体的にコミュニケーション運用能力を高めることができたか。	B	B	B	TTを実施できたが、英語運用能力を高める活動が十分ではなかった。	
		定期的な授業内でリスニング指導を行う。	リスニングの練習や指導及び小テストを実施し、リスニング力を高めることができたか。	C	B		定期的なリスニングのテストを実施できた。	
	授業改善につながる研究・研修の充実を図る。	教科指導と評価について研究する。	研究授業や評価基準について教科全体で協議できたか。	B	B		研究授業を通じて協議を行った。校外の研究協議会に英語科教員全員ではないが参加できた。	
		授業改善について、教科会議で研究協議する。	授業改善について、教科会議で研究協議する。	B	B		教科会議内で学習方針の共通理解と指導改善を共有した。	
	進路実現のための取り組み	授業内で週末課題を課し、家庭学習の習慣を確立させ、学力向上を図る。	日々の学習習慣を確立させる工夫ができたか。	B	B		週末課題を課すなど、家庭学習の習慣を確立させる工夫は十分ではなかった。	
		小テストを定期的実施し、学習内容と学習習慣の定着を図る。	小テストを定期的実施し、未到達者への指導を徹底できたか。	B	A		毎週英単語の小テストを実施し、語彙力増進の指導ができた。	
		1、2年生の商業に関する学科の生徒全員に全商英検を受検させる。	全商英検合格に向けて適切な指導を行い、合格率を上げる。	B	B		全商英検の指導を行い、合格率が上がった。実用英検も受験者が前年度より大幅に増加した。	

家庭科	主体性の確立	授業における主体的・対話的で深い学びを実現する	アンケートや3~4名程度のグループワークを取り入れ、積極的な意見交換や発表を行い、振り返りレポートなどをこまめに取り入れる。課題レポートの発表などを通して、情報の共有を行う。	グループワークや意見交換が積極的にできているか。まとめられているか。(ワークまとめ点)	C	B	B	グループワークはクイズ形式、アンケート様式、協議様式など多様な方法で行えた。
		体験を通して創意工夫・効率の良い作業やルールを学ぶ。		必要な知識を系統的に吸収し、実践につなげられるか。定期考査に向けて誠実に学習できているか。(段階別考査点)	C	C	C	観点別に考査問題を作成し、学習状況が確認できた。
	立(自律)性の確立	自らの現状や課題を模索し、自立に必要な知識と技術を習得する。	講義、ワーク、実習、振り返り、提出物の完成度などを通して定着の様子を把握する。個人作業や協力作業を取り入れ、コミュニケーションを取りながらスムーズに作業できるように促す。	現状と課題が把握できているか。提出物が指示通りできているか(レポート点提出物点)実習や作業が協力して、また個人の目標達成できたか。(実習点)	B	B	B	提出物の形式を一定化せず、多様な様式で実施した。実習は前年度より増加し、毎回班編成を変えてクラス内でどの生徒とも関わられるよう工夫して実施した。
		意思決定の重要性を知り、適切な情報、資料の読み取りができるようにする。	視覚教材や資料を活用し、身の回りに起こっている多様な状況を知らせることで課題意識を持たせ、自己決定の判断材料とする。	将来を見通した生活管理や情報の活用が適切にできているか。資料の読み取り内容を論理的に説明できているか(段階別考査点)	C	B	B	写真や動画、読み聞かせ、新聞記事などを利用し、デジタルコンテンツを活用して発表するなど皆に共有できるように努められた。
進路実現	社会情勢を知り、知識を蓄え、自分の言葉で現状と課題解決に向けての意思表示ができるようにする。	生活に関わる情報をリアルタイムで提示し、その都度考えをまとめる等の意思表示ができるよう促す。	将来を見通した生活管理や情報の活用が適切にできているか。資料の読み取りと現代の課題を結びつけ、自分の言葉で意思表示できているか。(段階別考査点、レポート点)	C	C	C	写真や動画、読み聞かせ、新聞記事などを利用し、デジタルコンテンツを活用して発表するなど皆に共有できるように努められた。	
情報	専門性ある職業人を育てる学校	検定試験合格率の向上	授業や補習等で検定試験や国家資格の学習を行い、資格取得を促進し、資格取得率の向上を図る。幅広い進路実現のために、より多くの資格取得を目指す。	入学次から卒業次を通して資格を取得している生徒の割合が8割以上かつ、複数(2つ以上)の資格を取得している生徒の割合を6割以上にする。	A	A	A	1~3年生217名中207名が資格を取得(95.4%) 複数取得率は79.3%であった
	進路実現ができる学校	学校推薦・総合型選抜で勝負できる専門性や学力向上の徹底	大学進学(理系進学、情報系進学)に向けて、情報科全体で進路指導を行い、合格率の向上を目指す。学校推薦・総合型選抜受験者に対し、進路先に応じた担当を割り当てる。	個別指導申込者全員が最後まで担当教員の指導を受け、受験する。	B	B	B	個別指導を申し込んだ生徒は、担当の教員の指導を受け、大学を受験した。しかし、個別指導への申込が間に合わない生徒や、途中で離脱する(進路変更により)生徒もあり、100%の達成とはならなかった。
	サポートするチーム	業務分担・サポートしてポジティブなフィードバックをするチーム	令和5年度より、情報科の体制が大きく変わり、一部授業のTT解除や、課題研究の大幅な体制変更(新たな担当など)などがあった。新しく担当する科目等もあるため、情報科学科として教員全体でサポートしながら授業や業務を進めていく。	関係の先生にアンケートを実施し、その結果に対し、会議を設け、改善策を検討する。	B	B	B	情報科教員が連携を取り、1年間授業を進めることができたが、TT解除の影響は大きく、上手く授業が展開できないこともあった。(教員調査より)来年度は3年生に新たな科目が、令和7年度から新たな教育課程となることを踏まえると、現体制のままでは厳しくなることが予測されるため、早急に体制を整える必要がある。
商業科	専門性ある職業人を育てる学校	検定試験合格率の向上	資格取得への啓蒙啓発、学習環境支援として、計画的・組織的な指導、検定補習等の取組の実施	検定合格率・資格取得率が昨年度及び京都府平均を超えたか	-	C		他校との比較はできていないが、前年より合格率が下降した検定があった。新過程での検定対応が不十分であったと考えられる。
		地域との協働による実践的探究学習	地域社会とつながる授業や取組の充実	地域の企業・大学・中学校などとの連携をとおして、学習の場の設定を30回以上実施できたか	B	A	B	各方面との連携による発表の場を数多く設定できた。
	学校DXを推進する学校	教育活動のDXを推進する	学習活動の実践にDXを推進し、活用が教科内に浸透する環境作り	各教員が学校DX研修の内容を活用した授業を年1回以上実施する	B	B		概ね各教員がDXを推進に関わる取り組みに参加できた。
	共有するチーム	教育方針や育てたい生徒像、生徒の日常の様子を共有するチーム	週1回程度の教科会議において、情報共有及び対策検討の時間を設定	年間25回以上の教科会議開催と情報共有、対策がとれたか	B	B		年間25回以上の強化会議を開催し、概ね情報共有に取り組めた。